

2019年2月15日(金)

参加無料  
申込不要

13:30-16:30 [13:00開場]

茨城大学図書館3階ライブラリーホール

茨城大学地球変動適応科学研究機関と人間文化研究機構国文学研究資料館は、2017年5月に学術交流協定を締結しました。そこで、同資料館が推進する文部科学省「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業の一環で、「歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた新たな研究分野の創成」というテーマの異分野融合型の共同研究を開始しました。

本シンポジウムは、様々な専門分野の研究者が水害を共通テーマにして歴史学と気候変動適応科学との接続を議論していきます。

人間文化研究機構国文学研究資料館  
茨城大学地球変動適応科学研究機関  
共同シンポジウム

# 水害対応の過去・現在・未来

## 開会

「国文学研究資料館との共同研究とは」

小荒井 衛〔茨城大学理学部 教授〕

## 基調講演

「歴史天候記録から探る江戸時代後半の気候変動」

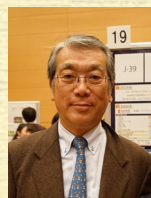
平野 淳平〔帝京大学文学部 准教授〕

「災害文化の教え」

畔柳 昭雄〔日本大学理工学部 特任教授〕



平野 淳平氏



畔柳 昭雄氏

## 講演

「1856年東海・関東台風による江戸の被害状況と社会対応」

渡辺 浩一〔国文学研究資料館 教授〕

「茨城歴史資料からのサイエンスデータの収集及び活用の提案」

野澤 恵〔茨城大学理学部 准教授〕・宮崎 将〔茨城大学理工学研究科 修士1年〕

「『惣囲堤』という知恵—関東・東北豪雨で被災した古文書から—」

添田 仁〔茨城大学人文社会科学部 准教授〕

「鬼怒川・小貝川における水位・流量・浸水域の気候変化影響予測の一例」

若月 泰孝〔茨城大学理学部 准教授〕

## 総合討論

モデレータ：田村 誠〔茨城大学地球変動適応科学研究機関 副機関長/准教授〕

●主催：茨城大学地球変動適応科学研究機関 (ICAS)  
人間文化研究機構国文学研究資料館

●問い合わせ先：茨城大学地球変動適応科学研究機関 (ICAS)  
TEL：029-228-8787  
Email：icas-con@ml.ibaraki.ac.jp

ご来場は公共交通機関をご利用ください  
〔茨城交通バス「茨大前」から徒歩3分〕

